

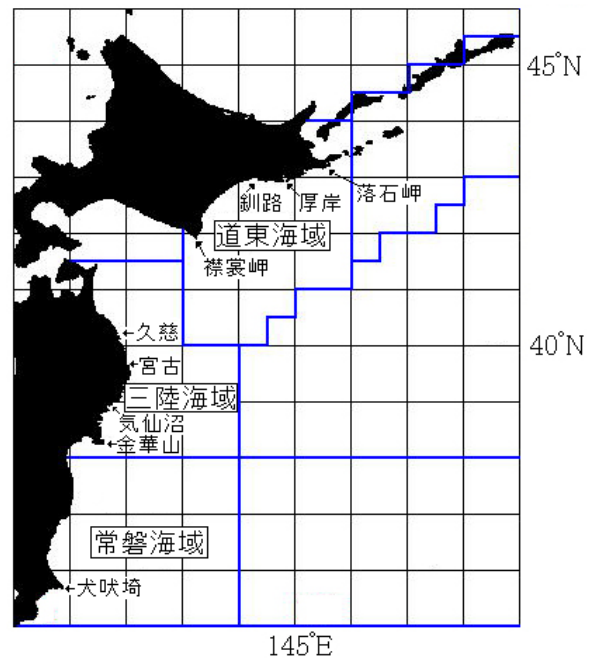
平成27年度 第3回 北西太平洋サンマ中短期漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し一般社団法人漁業情報サービスセンターがとりまとめた結果 －

今後の見通し(2015年10月上旬～11月中旬)のポイント

来遊量

- ・道東海域では、10月上旬は来遊量が増加して中位水準となる。10月中旬以降は、来遊量が減少する。
- ・三陸海域では、10月中旬になると来遊があり、10月下旬は中位水準となる。
- ・常磐海域では、11月上旬になると来遊がある。



海域の名称

問い合わせ先

一般社団法人漁業情報サービスセンター 漁海況部

担当：渡邊、松尾

電話：03-5547-6889、ファックス：03-5547-6881

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.jafic.or.jp/gyokaikyo/>

国立研究開発法人水産総合研究センター

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

平成27年度 第3回 北西太平洋サンマ中短期漁況予報

1. 今後の見通し

予測期間：2015年10月上旬から11月中旬までの旬別

対象海域：道東海域、三陸海域、常磐海域

対象漁業：さんま棒受網漁業

対象魚群：南下回遊群

1) 道東海域

(1) 来遊量

来遊量はゆるやかに増加し、10月上旬は中位水準となる。10月中旬から減少を始め、10月中旬～下旬は低位水準となる。11月上旬は、散発的となり、終漁となる。

(2) 漁場

道東海域では、10月上旬は落石南東沖～釧路南沖で漁場が持続し、襟裳岬沖にも一時的に漁場が形成する。10月中～下旬は、落石南沖～襟裳岬沖で漁場が持続する。11月上旬は、襟裳岬沖で散発的に漁場が残る。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

10月中旬になると、低位水準ではあるが来遊がある。10月下旬は、来遊量は増加し、中位水準となる。11月上旬は中位水準であるが来遊量は減少し、11月中旬は低位水準となる。

(2) 漁場

10月中旬は、三陸北部が漁場となる。10月下旬は、漁場が三陸南部まで広がり、10月下旬～11月上旬は、三陸北部～南部が漁場となる。11月中旬は、三陸南部に漁場が残る。

3) 常磐海域

(1) 来遊量

11月上旬になると、低位水準ではあるが来遊がある。11月中旬は、来遊量は増加し、中位水準となる。

(2) 漁場

11月上旬は、常磐北部が漁場となる。11月中旬は、漁場が常磐南部まで広がる。

2. 予測の概要

海 域		10月上旬	10月中旬	10月下旬	11月上旬	11月中旬
道東海域	来遊量					
	動向	中位増加	低位減少	低位減少	断続的	
	漁 場	落石～釧路沖 襟裳岬沖	落石～ 襟裳岬沖	落石～ 襟裳岬沖	襟裳岬沖	
三陸海域	来遊量					
	動向		低位増加	中位増加	中位減少	低位減少
	漁 場		北部	北部～南部	北部～南部	南部
常磐海域	来遊量					
	動向				低位増加	中位増加
	漁 場				北部	北部～南部

3. 漁況の経過概要（9月中旬）

1) 道東海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した道東海域における来遊量の水準は、前旬を上回ったが、前年を下回る低位水準であった。道東海域よりも北東側の花咲港東～東南東沖における来遊量の水準は、前旬を上回ったが、前年を下回った。日別CPUE（1網当たりの漁獲量）から判断すると、道東海域は、期後半に来遊量が増加した。また花咲港より東～東南東側における来遊量は、期後半に増加した。

(2) 漁場

道東海域では、落石～厚岸沖が漁場となったが、主漁場は、道東海域よりも東～東南東側の花咲港東～東南東沖であった。道東海域では、9月15日夜以降、小型船数隻～20隻程度が落石南東沖～厚岸南沖の10海里付近（14～18℃）で操業し、1～10トン程度漁獲した。

なお道東海域よりも東～東南東側では、9月10～11日夜は台風17号による時化のため操業できなかったが、12日夜以降、前旬に漁場となっていた場所よりもやや南側の花咲港東～東南東沖（12～14℃）の花咲港まで半日～1日程度かかる場所で、多くの船が操業した。

(3) 魚体

道東海域では、体長29～30cmモードの大型魚主体で、中型以下の魚が2～3割程度混じった。

道東海域よりも東～東南東側の、花咲港東～東南東沖では、体長30cmモードの大型魚主体で、中型以下の魚が1割前後混じった。大型魚の体重は120～140g台が主体であった。

4. 常磐海域の来遊予測について

本予報では、常磐海域への魚群の来遊時期は11月上旬になると予測しているが、その根拠は以下の通りである。

2015年6月～7月に東経143°～西経165°の海域で東北区水産研究所が行った中層トロールを使った漁獲調査の結果では、サンマは今年も東経155°以西では、非常に少なかった。このように、今年も前年に引き続き、漁期前調査時に西側の海域でサンマが少ない状況が継続していると考えられる。一方、本調査結果から推定した東経143°～西経177°における推定資源量は、重量ベースで136.1万トンと前年の190.5万トンを下回った。

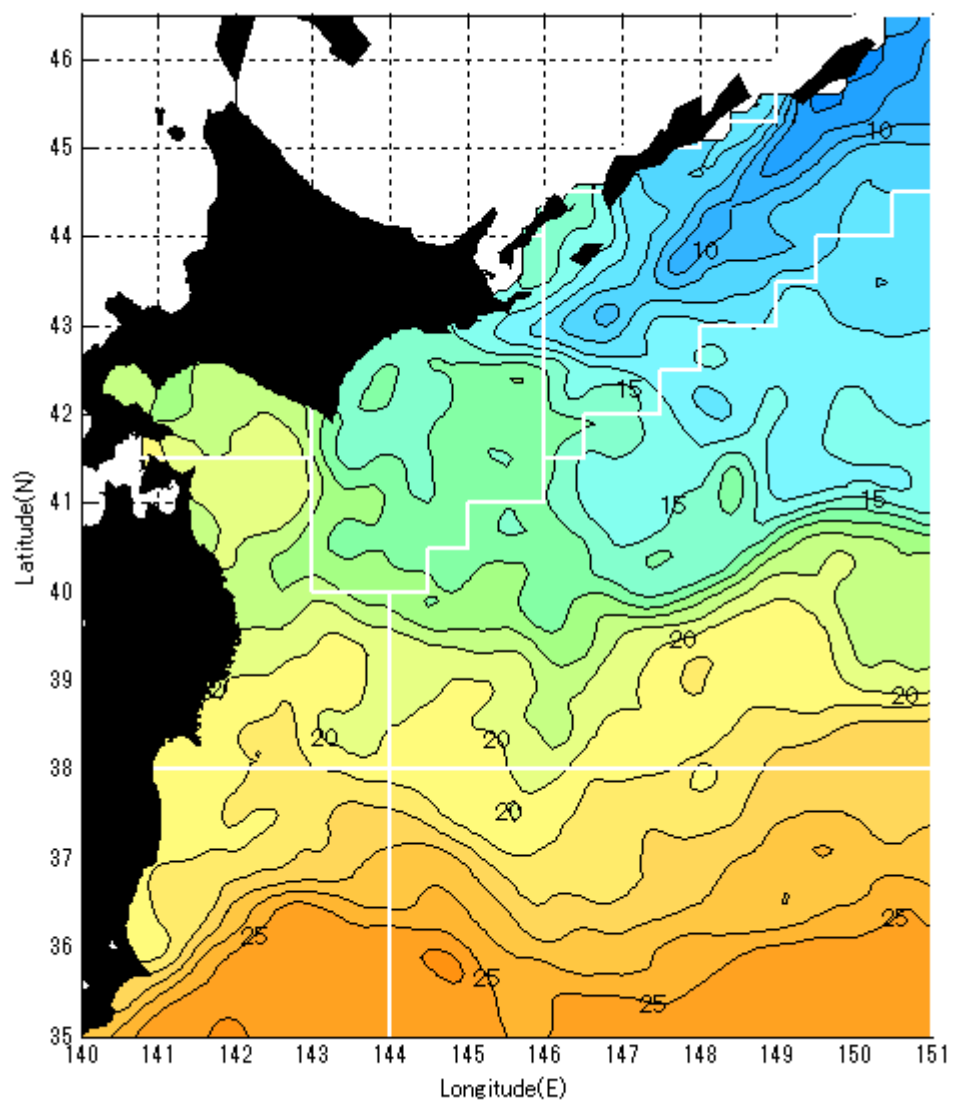
8月中旬～9月中旬までの水揚量の動向を見ると、今年は前年よりも少なかった。今年は、9月中旬に落石南20海里～厚岸南40海里付近に漁場が形成されたものの、9月中旬の主漁場は花咲港東～東南東沖である。前年は、漁場の南端が9月22日夜に襟裳岬南70海里付近に達していたことと比べると、今年は魚群の南下がかなり遅く、今後も魚群の南下が遅いと考えられる。

予測水温分布図では、11月上旬になると例年漁場が形成される18℃台が常磐海域に出現する。以上のことから、常磐海域への魚群の来遊時期は、平年（2004年から2014年までのうち、常磐海域で操業を行わなかった2011年を除く10年間：10月下旬）よりやや遅い11月上旬になる。

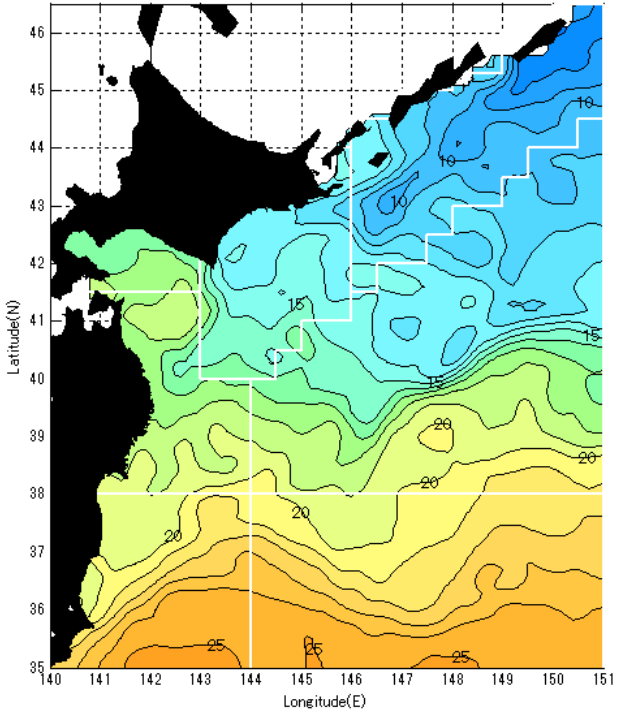
なお、9月中旬における水揚物の体長組成は、大型魚主体であるものの、中型魚以下の混じりは前年よりもやや多い。また東北区水産研究所の漁期前調査結果における東経160°以東の海域では1歳魚の割合が高いものの、0歳魚の割合は前年よりも高い。これらのことから、常磐海域における魚体は、大型魚主体で推移するが、中小型魚の混じり割合は、前年よりも高くなる。

5. 予測水温分布図

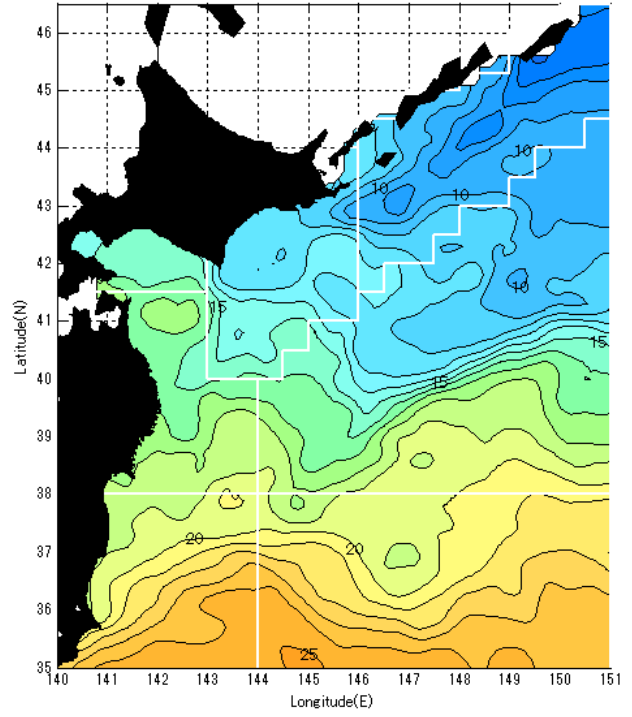
10月上旬予測表面水温分布図



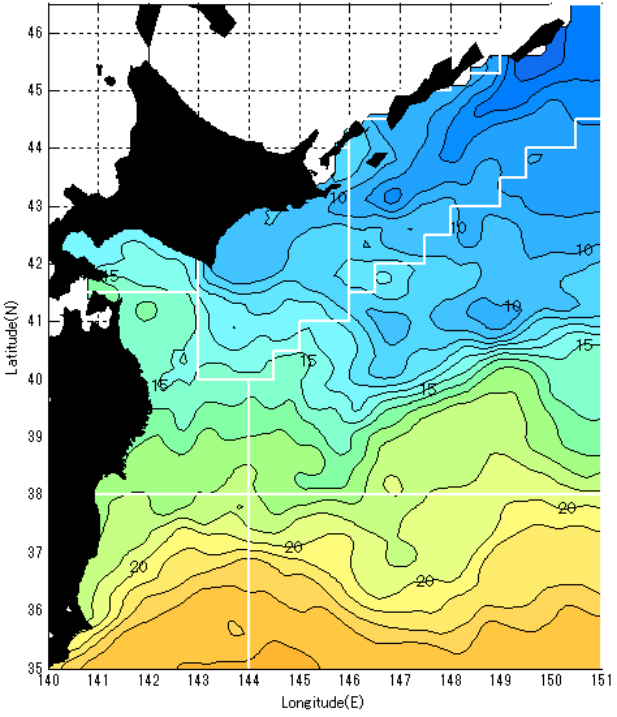
10月中旬予測表面水温分布図



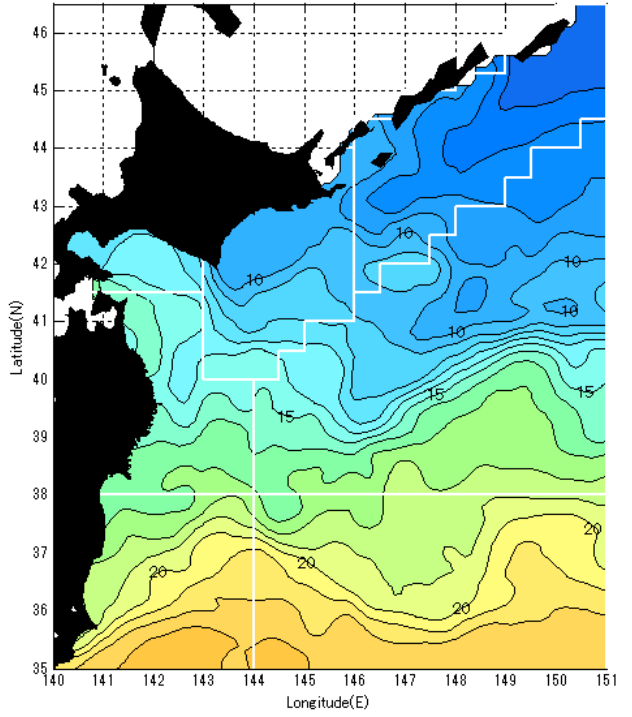
10月下旬予測表面水温分布図



11月上旬予測表面水温分布図



11月中旬予測表面水温分布図



参 画 機 関

<p>地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場</p> <p>岩手県水産技術センター</p> <p>宮城県水産技術総合センター</p> <p>福島県水産試験場</p>	<p>茨城県水産試験場</p> <p>千葉県水産総合研究センター</p> <p>国立研究開発法人 水産総合研究センター 東北区水産研究所</p> <p>(取りまとめ機関) 一般社団法人 漁業情報サービスセンター</p>
---	---